

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	商店街（代表者）	・新幹線開業を視野に入れた商圈の変化が、景気上昇への刺激になればと期待している。
		百貨店（売場主任）	・来月上旬同業の百貨店がオープンし、オープン直前は買い控え、オープン後は多くの来街者が見込めるため、それについてはやや苦戦をされると思われるが、町全体は活気が出るため、全体的には景気が良くなる。
		百貨店（営業担当）	・春先に向けて、新店オープンなど一時的な効果が期待される。また、顧客回遊ルートの変化で来店客数の増加を予想している。
		スーパー（総務担当）	・気温の変化、モチベーション等に準じて売上が昨年より伸びており、客の購買意欲は少しずつ伸びてきている。
		スーパー（経理担当）	・BSE、鳥インフルエンザなどで豚肉の動きがいいが、今後オーストラリア産の牛肉や豚肉は品薄や価格高騰が懸念される。また、あと2か月に迫った総額表示でも消費者の価格に対する値上感をよび、一時的な買い控えが懸念される。
		衣料品専門店（経営者）	・今月は人の動きがやや活発になってきた。相変わらず高額商品は期待できないが、商品の精度を上げ、積極的に雰囲気盛り上げることで売上も回復する。
		衣料品専門店（総務担当）	・宝石、時計などの高級品の買い求めが続いている。店頭での高級品に対する感触が良い。
		乗用車販売店（従業員）	・トラックの新車販売台数が少しずつ増えている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・来店客が若干持ち直しつつある。
		通信会社（業務担当）	・低価格商品の品ぞろえは少ないものの、次世代携帯電話のエリア拡大と高機能商品発売もあり、新規契約は増加する。
		通信会社（営業担当）	・客の問い合わせ等の数が増えてきたため、やや良くなる。
		設計事務所（所長）	・官公庁の設計委託が順調に出ている。民間も引き合いが多く、仕事量が増えている。
		住宅販売会社（従業員）	・業績が好転している企業の社員については、住宅取得意欲が向上する。
	変わらない	商店街（代表者）	・多少景気が上向き気配はみえているが、末端の特に地方の小売店段階では、オーバーストアはますますひどくなるようで、1店当たりの売上高は低迷せざるを得ない。またその中で新しい商品、新しい売り方を目指し努力している店は多少伸びも出てくる。
		商店街（代表者）	・近隣に大型百貨店がオープンするため客の流れが変わることが懸念される。
		一般小売店〔青果〕（店長）	・ある程度の底打ち感があるが、プラスになる購買心をそそぐ材料的なものが乏しいので、ここ半年は変わらない。
		百貨店（営業担当）	・総額表示の問題等があり、非常に先行きが不透明である。
		百貨店（売場担当）	・紳士服は回復したが婦人服はここ2、3か月低迷しており、主力の部分が動いていない。今後は若干不透明な部分が残っている。
		スーパー（店長）	・3か月先は、食品等に関して良い先行きは望めない。単価自体はそう伸びておらず、現状と同じである。
		スーパー（店長）	・BSEや鳥インフルエンザの問題もあり、生鮮食料品が伸び悩んでいる。この傾向は今後も続く。
		スーパー（店長）	・総額表示の影響があり、消費は悪くなる。
		スーパー（店長）	・総額表示に変わるため、消費者にとっては値上げしたように見えることが懸念される。消費低迷は今後も続く。
		スーパー（企画担当）	・製造業を中心とした景気回復の兆しはあるものの、米国产牛や鶏肉からの客離れの回復は難しい。
		コンビニ（エリア担当）	・コンビニエンスストア業界は厳しい状態が続いているにもかかわらず、競合店の出店が相次いでおり、少しばかりの景気の回復があったとしても、店舗の収益を確保するに至らない。
		コンビニ（エリア担当）	・コンビニエンスストアに限らず、あらゆる業種においても施策が一律になる傾向が強い。斬新なアイデア・施策等魅力がなければ変わらないという傾向は今後も続く。
		乗用車販売店（販売担当）	・新しい形の車の新商品が各社勢ぞろいして、その面で客の関心度は高まっているように思えるが、依然として財布のひもは固い。

	その他専門店〔医薬品〕（従業員）	・商品単価の下落は止まったが、なかなか上がる気配がない。
	都市型ホテル（スタッフ）	・状況等を見てもさほど変化はない。またSARSやBSEの影響も特にならない。
	旅行代理店（従業員）	・アジアの客が多いので、鳥インフルエンザの影響がもう少し響いてくる。
	タクシー運転手	・今後もタクシー利用の客が増えるとは思えないし、ホテル利用の客自体もあまり期待できない。
	通信会社（営業担当）	・現在が非常に悪いので、これ以上悪くなることはない。
	通信会社（管理担当）	・まだ雇用情勢も悪く、4月の春闘もベースダウンという声が聞こえてくるので良くなるとは思えない。
	通信会社（営業担当）	・次世代携帯電話の新機種が発売になるため、来客数は増加すると思われる。しかし、売上は価格次第だと予想される。
	観光名所（職員）	・景気が良くなっているとは実感できていないが、ここ何か月の来客数が前年を下回ることはない。今後もこの傾向が続く。家計も少しずつ良くなる。
	ゴルフ場（従業員）	・2、3月の予約状況は、全年よりやや客足が鈍いが、問い合わせは多い。トータルでは前年並みである。
	住宅販売会社（従業員）	・戸建て住宅の建築が上向かない。客の雇用不安、年収ダウンが影響しており、雇用関係の改善が望まれる。
やや悪くなる	商店街（代表者）	・郊外店の出店が激しい。特にロードサイドの飲食店や大型商業施設が郊外にできているため、商店街での商売を辞める人が増え、空き店舗が増えている。
	商店街（代表者）	・BSE、鳥インフルエンザの影響が出る。
	百貨店（売場主任）	・客の買い方が非常にシビアになっている。粗品、頒布等の催しの来店数は減っていないが、売上、販売数量は減っている。この傾向は続く。
	百貨店（営業担当）	・3月に大型アウトレットモールや大型百貨店がオープンするため、今後はさらに厳しくなる。
	百貨店（営業企画担当）	・福岡一極集中が加速し、さらに大型アウトレットモールのオープンもあるため、客数の減少傾向が続く。
	スーパー（店長）	・消費税総額表示により、客に高いイメージを与えてしまうため、4月の売上が心配である。また、3月にまとめ買いが起り、4月はその反動で売上が悪くことも懸念される。
	コンビニ（経営者）	・近いうちに競合店が出店するという話を聞いており、そうなると一層競争が厳しくなり、売上が分散してしまう。
	住関連専門店（経営者）	・2～3月にかけて従来では婚礼家具等の動きがあるが、今月の動きを見ると、家具についての見通しは、なかなか厳しいようである。家具業界の景気回復は厳しい。
	観光型ホテル（スタッフ）	・第3四半期（10～12月）までは目標・前年比をクリアしたが、第4四半期（1～3月）の予測は大幅に落ち込む。特に宿泊・個人催事（婚礼）が厳しい。
	旅行代理店（業務担当）	・3月以降の受注が、イラク戦争が影響した昨年の数値よりも下回っている。さらに国内旅行も昨年の数値を上回るのがやっとで、いままでの勢いがなくなっている。
	タクシー運転手	・男性客から、自分の小遣いが減らされるという話を良く聞く。明るい材料が何もなく、人の動きが全然ない。
悪くなる	スーパー（店員）	・年配の客が多くなってきた。単価は少々高いが、販売量が少ないため、売上は伸びない。
	高級レストラン（経営者）	・昨年の11月くらいより悪くなる傾向が急激にひどくなり、春の予約もほとんど入っていない。
企業 動向 関連	良くなる	
	やや良くなる	
	家具製造業（従業員）	・現在、把握している物件の情報から判断すると、2～3か月先はかなり忙しくなりそうである。ただ、受注単価の下落はまだまだ続いており、利得的にはかなり厳しい。
	精密機械器具製造業（経営者）	・原料の受注関係から考えて、まだまだ増えるという計画予想を客から聞いている。協力会社、又は下請が負荷オーバーで、協力関係も変わってきた。
	建設業（総務担当）	・新幹線の開業を間近にひかえ、鹿児島中央駅近辺での立体駐車場の建設計画、店舗の改装等の動きがあり、受注に結び付きそうである。
	輸送業（従業員）	・今月の受注量、販売量、売上の数字があまりにも悪い。そのためメーカーはキャンペーンを行ったり新規商品を投入する等して、商品全体をアピールしている。今月よりはやや良くなる。
	輸送業（従業員）	・自社の取扱量の回復や同業他社の業績が好調である。

変わらない	農林水産業（経営者）	・鳥インフルエンザやBSEの影響で、加工原料が不足している。このまま国内での鳥インフルエンザの発生がなければ、国内需要の高まりが期待できる。	
	農林水産業（従業者）	・地産地消に需要があるが、価格の問題等で現状並みに推移する。	
	農林水産業（従業者）	・BSE、鳥インフルエンザの発生により、引きずられるように国内産野菜への見直し・期待感が高まるとの見方もあるが、依然不透明感が強い。	
	一般機械器具製造業（経営者）	・仕事量はある程度確保できるが、単価がなかなか上がらず、資金繰りが大変になっている。	
	電気機械器具製造業（経営者）	・半導体大手の動向は、全体としての動きはしっかりとされている。しかし3か月先はいい企業と悪い企業の差がつくと思われる。こういった二極化の動きが今月からみられる。	
	輸送業（総務担当）	・半導体、食品、合成樹脂、食料品等はほとんど変化がない。しばらくはこのままで推移する。	
	通信業（職員）	・利益の少ない工事を数件受注しており、その対応に人員が必要となるため、営業活動が制限される。	
	広告代理店（従業員）	・業界全体として、前年比1けた増で安定している。	
	広告代理店（従業員）	・レギュラー広告の減少を補うことができず、相変わらず厳しい状況が続いている。	
	経営コンサルタント	・当面新しい動きが出てくると思えない。	
やや悪くなる	鉄鋼業（経営者）	・年明け後原料価格が急騰し、なお続伸中である。副原料、副資材についても値上がりが見込まれており、大幅なコストアップが予想される。他方、製品価格は内需が低迷する中で値上げのスピードが遅く、先行きは厳しくなる。	
	不動産業（従業員）	・オフィスの賃貸料や土地の売買価格の回復めどが立たない状況が続いている。	
悪くなる	繊維工業（営業）	・海外生産の比率が高すぎる。海外移転はまだまだ続くと思われるし、国内生産のメリットであったクイックレスポンスも中国等の海外で可能になったと聞いている。厳しい状況が続く。	
	輸送用機械器具製造業（経営者）	・大型外航船が建造されることによって資材単価、特に鋼材が値上がりし、また従業員（造船マン）がそちらに流れている。	
	輸送用機械器具製造業（営業担当）	・海外での生産が増大しているため、悪くなる。	
	経営コンサルタント	・酒類マーケットでは、飲食店を始め酒の量が減っており、消費者の飲む回数も減っている。依然として家庭の消費状況は厳しい。	
雇用関連	良くなる	人材派遣会社（社員）	・年度末に向け求人の件数は増える。また派遣法の解禁や、法律の規制緩和を受け、人材の流動化や新規参入企業が増えるため、雇用が増え、収入を得る人が増える。
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・最近のオーダーは長期受注が多い。社員の補充を短期に乗り越えるということではなく、安定した長い期間、いわゆる雇用者としての派遣を長期で考えている。雇用の安定の傾向が出てきた。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・求人数が増えており、やや良くなる。
		職業安定所（職員）	・新規求職者数が2か月連続で前年比減、新規求人は増加傾向である。また企業整理については落ち着いてきた。
		職業安定所（職員）	・有効求職者数が減少し、有効求人数が増加する傾向が15年1月より継続しており、雇用回復力が感じられる。
		職業安定所（職員）	・製造業においてデジタルカメラや半導体等生産が好調であり、プラント工事や郊外複合商業施設の建設や大型の設備投資が実施されている。景気は良くなる。
	民間職業紹介機関（支店長）	・ユーザーの年度末繁忙期需要については大きな変化はないが、新年度の受注案件が年明けと共に入り始めた。少人数の派遣需要に加えて、ある程度まとまった人数の商談が昨年よりも若干早めに発生している。景気は良くなる。	
変わらない	職業安定所（職員）	・生産面では、製造業の一部に堅調な動きもみられるが、業種によりばらつきがある。景気回復のペースは、全体として、横ばいの状態を脱しきれず、今一つ力強さが感じられない。	
	民間職業紹介機関（職員）	・製造業を含めメーカー、流通サービスすべてに対して求人数が増えており、景気が徐々に上向いていることがうかがわれる。しかし、求職者数のバランスがうまく取れておらず、需要と供給のミスマッチを感じる。	
やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・新規求人案件が、前年より少ない。	

悪くなる

-

-